

# 第 1 回総合球技場検討委員会 会議録

日 時 平成 2 8 年 6 月 3 日 ( 金 ) 午後 3 時 3 0 分 ~ 5 時

場 所 山梨県庁防災新館 2 0 1 会議室

## 出席者

- ・ 委 員 ( 5 0 音順 )  
有賀委員 ( 代理人出席 )、海野委員、河村委員、小林委員、小宮山委員、  
佐々木委員、佐藤委員、田中委員、野村委員
- ・ 県 側  
吉原総合政策部長、小島総合政策部次長、依田リニア推進課長、  
秋元エネルギー政策課長、望月都市計画課長、赤岡スポーツ健康課長  
( 事務局 : 政策企画課 ) 末木政策企画課長、渡辺政策主幹

## 会議次第

1. 開会
2. 総合政策部長あいさつ
3. 委員紹介
4. 委員長選出
5. 委員長あいさつ
6. 議事
  - ( 1 ) 総合球技場の整備について
    - 整備検討に至った経緯等について
    - 本県の球技場の状況について
    - 国内外の球技場の状況について
  - ( 2 ) 今後の検討委員会の予定について
7. 閉会

## 内 容

1. 開会  
司会 : 渡辺政策主幹
2. 総合政策部長あいさつ  
本日は、お忙しい中、第 1 回総合球技場検討委員会に出席いただき、誠にありがとうございます。  
また、検討委員会を開催するに当たり、委員を快く引き受けていただき、感謝申し上げます。  
さて、この度検討いただく総合球技場について、県民スポーツの振興はもとより、交流人口の増加や地域経済の活性化を創出する拠点となるとの考え方のもと、平成 2 8 年 2 月定例県議会において、知事が整備を前提として検討を行う旨を表明したところである。  
総合球技場の整備は、県における大規模な施策となるため、多くの県民の皆様の

意見を伺いながら丁寧に検討を進めていく必要がある。委員の皆様には、それぞれ専門の立場から忌憚のない意見、提言をお願いします。

### 3. 委員紹介

初めての会議のため、委員及び県側出席者の紹介を行った。

### 4. 委員長選出について

検討委員会設置運営要綱第2条第4項「委員長は、委員の互選による。」の規定により、委員長に佐々木委員が選出された。

### 5. 委員長あいさつ

総合球技場検討委員会ということだが、部長あいさつにあったように、総合球技場は、単純に競技場というだけでなく、地域の活性化という役割も担うものとの話があった。そういう意味では地域に対する投資である。私は都市計画、交通工学含めていろんなインフラ投資について専門に研究しているが、そういった知見が役に立てばと思い委員を引き受けた。

また、委員の皆様のご忌憚のない意見を伺いながら、球技場が地域にとって、競技者の方々や観客の方々、すべての方々にとって優れたものとなるように審議を進めていくので、協力をお願いします。

検討委員会設置運営要綱第2条第5項「副委員長は、委員長が委員の中から指名する。」の規定により、佐々木委員長が副委員長に田中委員を指名した。

### 6. 議事

議長：佐々木委員長

#### (1) 総合球技場の整備について

整備検討に至った経緯等について

本県の球技場の状況について

国内外の球技場の状況について

議題(1)について、資料1、2により事務局から説明した後、次のとおり意見交換を行った。

#### (委員長)

一口に総合球技場と言ってもいろいろなものがあり、そういう意味でイメージとしてなかなか捉えづらいと思う。

そこで、海外そして国内の最近のスタジアムの整備状況などについて説明いただく。

#### (委員)

Jリーグでは、6年前からスタジアム専門のセクションをつくって、日本のスタジアム環境の大きな改革に向き合ってきた。

国内では、昨年南長野(長野市)に1万5千人のサッカースタジアムが完成し、今年は大阪の吹田に4万人のサッカースタジアムが完成した。来年3月には北九州、2019年には京都にサッカースタジアムが完成する。これらは一つの大きなコンセプト

トによって進んできた。

私はすべて関わってきたが、これまでの国体標準の競技場、競技をする場の競技場ではこれからはダメだということ。Jリーグでは2010年から競技場という言葉はNGワードになっていて、すべてスタジアムと表記を変えている。

今年4月、5月と国の動きとリンクをしてきた。5月に閣議決定予定だった成長戦略、官邸のホームページに成長戦略の案がでていますが、その中でスタジアム・アリーナ改革と、コストセンターからプロフィットセンターへ、ということがしっかりと明記されている。自由民主党の政策提言の中にも、スポーツ施設のあり方について、国体標準から抜本的に改革する、中心市街地の活性化やスポーツを核としたまちづくりを担うスマート・ベニューの先進事例をつくっていくとあり、このような動きが国全体として沸き起こっている。今現在、国内で山梨県をはじめ約15のスタジアムの構想がある。

#### DVD「スタジアムはわが街の誇り」上映 委員提出資料説明

資料には、スタジアムをどう考えるか、スタジアムは文化的にも経済的にも地域に貢献できること、スポーツを一つの集客装置と捉えたまちづくりの視点がまとめられている。もう一つ、防災拠点としての役割も、最近国内で重視されている。

来年3月に完成する北九州、これは小倉駅から直線距離で500mの立地。大阪吹田は目の前にある巨大なエキスポシティというエンターテイメント・商業施設と一体になったエリアにある。南長野のスタジアムはとてもコンパクトで、コスト的にも80億円という設計施工の予算ででき、各自治体から現地視察されている球技場である。

#### (委員長)

ヨーロッパ、日本を含めて様々な取り組みがなされているということで、皆様の理解も深まったと思う。

今回第1回目ということで、ここまでの説明を聞いて、皆様の専門分野は異なると思うが、整備を検討するに当たって重視すべき点、留意すべき点などがあると思うので、意見をいただきたい。

#### (委員)

今回の総合球技場について、知事の所信表明もあったが、私としては県民や、特に子ども達に夢と希望を与えられるものであるため、設置をお願いしたい。

スポーツも文化なので、スポーツ文化を通じて県全体を活性化できるよう、この委員会で検討しなければならないと思う。この施設を通じて、実際に競技する人、何かに活用する人、また観戦する人の裾野自体も広げなければならない。球技以外での活用ということも非常に重要であり、それにより地域の活性化に寄与できる施設になる。また、競技する人と観戦する人とどまらず、地域全体が満足するような機能、規模、場所についてより深く検討していく必要があると思う。

その際、一つの選択肢として、リニア環境未来都市という整備方針があるが、その中で整備をする前提がもしあれば、一つ注意をしなければならない。リニア駅周辺の交通環境、渋滞に配慮して場所を検討する必要がある。試合終了後にリニア駅周辺が非常に混雑してリニア駅にたどり着けず、リニア新幹線に乗り遅れるお客さんがいないようにということも非常に重要である。リニア新幹線を活用するお客さんにとって障害となることは避けなければならないと思う。

また、先ほど80億円という話もあったが、スポーツ施設の場合は金銭面の評価が難しいが、施設の利用需要がどれくらいあって、どれほどの投資がベストなのか、またそれを整備管理するための財源をどのように確保していくのかも併せて検討していくことが必要であると思う。そこで、例えば行政では指定管理者も多くなっているが、それだけではなく、DBOとかPFIとかそういった多様な手法の中から、今回の総合球技場で最適な事業手法を検討することも大変重要である。それが県民負担を極力軽減していくことにもつながるので、非常に大事だと思う。

(委員)

DVDを見て、理想は高いものになっているが、やはり将来的に負の遺産という形にならないような、夢のある実現性・可能性のある集いの場がいいと思う。

山梨というのは東京から一番近くて遠い県だと思うが、それがリニアとか交通のインフラが整うことによって、場合によっては日本の中心になると思っているので、期待も含め柔軟な意見を持てればと思う。

(委員)

サッカー、ラグビー、アメフトの団体が陳情をして県にお願いをしたが、その経過をまとめたものを説明する。

#### 委員提出資料説明

私どもサッカー界では、スポーツをする施設として、例えば水泳はプールでやる、野球は野球場でやる、それから自転車競技はかいじ国体のためにつくった境川の立派な施設がある。各スポーツのそれぞれの施設があるが、サッカーは陸上競技場でやっているというのが実態で、専用スタジアムが欲しいと以前から思っていた。県の当局には前知事にも陸上競技場で見るサッカーと専用スタジアムで見るサッカーとは全然違うと、オペラを体育館で見るようなものだと冗談で言ったこともある。私たちはスタジアムが欲しいと日頃から要望してきた。

Jリーグの各チームのスタジアム事情として、J1に18チームあるが、そのうち陸上競技場でやっているのは広島、甲府、湘南の3チームだけ。今広島でも専用スタジアムをつくるということで大変な議論になっている。それからJ2にも専用スタジアムがある。京都は2019年にできる。山形も構想中。JリーグはJ3を数年前に立ち上げたが、J3でさえも専用スタジアムがある。山梨と同じような、あるいは山梨より小さな鳥取県にも専用スタジアムが2つもあること考えると、我々としても是非山梨県に一つ専用スタジアムが欲しいという気持ちである。

2014年に約10万近くの署名をいただき、県当局にお願いした。議会の皆様、あるいは経済界の皆様にも理解を得たいということで、去年の7月に新しくできた、規模的にも、もし山梨がつくるとしたらそれほど大きな立派なものはとてもつくれないため、つくるとしたら近い感じということで、長野市総合公園球技場、それから今J2の松本が使っている、ある意味でいう専用スタジアム、この2つを視察してきた。参加者は山梨県議会の各党派16名、そして商工会議所、中銀の頭取をはじめとする幹部、県の担当部署の方、山梨県サッカー協会、ヴァンフォーレの総勢34名で視察をした。

それから、たまたま私の前の職場が新聞放送、イベント会社で、その経験を踏まえると、山梨県で諸々イベントをするときに、会場は2,000人収容のコラニー文化ホールか、数千人収容のアイメッセしかなく、大きなイベントやコンサートをしたい

が山梨県ではできないとの声を年中聞いてきた。何年か後に東京から15分、20分で来られるところに、例えば2万人とか2万5千人という会場があれば東京のイベントを持ってこられる。しかも緑豊かなところという利点もあるので、そういう意味で、球技、競技だけではなく、地域のイベント、あるいは活性化のためにつくって欲しいと思う。

(委員)

ラグビー競技人口は、実際選手役員併せて1,000人ちょっとで、決して多い人数ではない。主なところでは、関東社会人リーグの東京洗染クリーンファイターズと、山梨学院大学ラグビー部が頑張っている。ラグビーの試合は御勅使南公園と富士北麓公園を会場として行っている。かいじ国体の時に国体基準でつくられた競技場で、スタンドに観客席がほとんどない状況だったが、一昨年御勅使南公園のスタンド改修により観戦しやすくなった。しかし大勢の集客には限界があり、大勢の集客のイベントとしては、山梨中銀スタジアムにおける5月の招待ラグビー、冬のジャパンラグビートップリーグ、この2試合の公式戦を行っている。サッカーに比べてまだまだ集客は少ないが、県内のラグビーファンには喜んでもらい、トップレベルの試合が観戦できて大変ありがたく思っている。ただし、陸上競技場であるため、ラグビーを観るに当たって観客席からどうしてもピッチが遠く、醍醐味である身体がぶつかり合いとかそのへんで今ひとつ迫力が感じられないところがある。昔、緑が丘のサッカー場があったが、目の前で試合ができて、あのような感じが欲しいということは常に皆で話している。昨年招待ラグビーで、トラックレーンに長椅子を設け、少しでも身近に観戦できるように試していて、今年も2回目を行ったが、大勢の皆さんにそこで観戦してもらった。少しでも楽しんでもらえるような取り組みをしている。目の前で観客が見ているあの感じを、低い目線で楽しめる、そういったスタジアムの検討をすればおもしろいゲームが見られると感じる。

高校の決勝戦は御勅使南公園で行っているが、球技場ができた時にはここで決勝戦をできたらいいと、ここを聖地として目指して高校生達が頑張るという球技場ができればいいと思う。関東大学ラグビーの公式戦は入場料が得られる。集客を図り、少しでも収入が得られるように大会を引っ張ってくるとか、トップレベルの試合も年に数回できるようになればと思っている。

昨年仕事の関係で長野県のスタジアムを視察した。年間にグラウンドを使って試合ができる日数は実際には少ない。芝生の養生とかもあり、1ヶ月の利用可能日数や時間は限られている。ヴァンフォーレの公式戦やラグビー、アメフトの試合をして収入を得られるとしても、とてもゲ-ムの収入だけでは成り立たないことは歴然としている。イベントホールや会議室等を整備して、毎日いろんな形で利用してもらえるような施設も必要だと思う。スタジアム周辺に子どもからお年寄りまで、あとハンディキャップのある方も楽しめる施設が必要になってくる。そこに行けばいろいろ楽しめるということで、近隣の方に気楽にきてもらえるようなスタジアムができたらいいと思う。

パブリックコメント等も求めるのだろうが、県民の皆様の意見が反映されるようなスタジアム建設ができたらいいと思う。

(委員)

アメフト協会が山梨県にはあるが、なぜ山梨県にあるかということ、日本のアメリカンフットボールの父がポール・ラッシュ先生で、清里の清泉寮に日本のアメフトの殿堂がある。アメフトの普及などに貢献のあった方々を顕彰しているホールがある。その管理等を山梨県協会がメインでやっている。それで山梨県にアメフト協会があるが、

各県すべてにある訳ではない。ポール・ラッシュ先生の名前を付けたラッシュボウル、年に1回中銀スタジアムで10月頃開催しているのが主な試合。現在はキープ協会、要するに清泉寮の理事長が日本アメリカンフットボール協会の会長を兼務している。山梨県と清里とは日本アメリカンフットボール協会と密接な関係にある。アメフトでは正月に社会人と大学生のチャンピオンが東京ドームで試合をするが、これがライスボウルで、それにもポール・ラッシュ先生の名前を付けたカップを最優秀選手に贈呈する。そういう伝統で開催されている。関東学生連盟と関西学生連盟が大学生、日本アメリカンフットボール協会が社会人、これを中心に全国でいろいろな試合をしている。味の素スタジアムが一番メインのアメフトの試合会場ということになっている。山梨県に本格的なフットボールができる会場があればそういった試合を誘致できる。観客が来ないとお金の問題があるので、どうしても東京の方でやることになってしまうが、観客が動員できる環境が整えば、各種試合等も誘致できるのではないかと思う。

話が先過ぎるかもしれないが、東京から来る人たち、リニアに乗ってくる人たちがどれくらいいるか分からないが、やはり駐車場、山梨の場合、田舎の場合は駐車場。リニアの駅周辺につくって本当に駐車場ができるのか、立地場所は非常に一番大きな課題ではないかと思う。現状小瀬でヴァンフォーレが試合をしているときに駐車場をどう使っているかは知らないが、それがそのまま使える立地条件がベター、それをリニアの駅も使えるという場所がベターではないか考える。

(委員)

私はバーゼルの球技場に行ったことがある。バーゼルは大きな都市で、球技場は少し郊外に行ったところだが、市電で行けるようなところだった。デパートを含めてショッピングセンターも隣接されていた。その時は試合はしていなかったが、施設のその他の使い途というところですごく新しいと思った。

新しく建設するに当たって、試合と試合以外のコンサートなどのイベント、またそれ以外の収益源としてどういうものを予定しているのか。観戦にきた県外の人が前後に食事をとったり、ショッピングをしたりということで商業施設をつくるのか。商業施設をつくと、地元の事業者とかが様々な影響がでるのではないか。また、地方の都市でも人口が多いところと、いわゆる田舎では球技場の在り方は違うのではないかというところが気になった。

(委員)

私はヴァンフォーレの試合を見るのが好きで、アウェイにも行って楽しんでいる。やはり専用スタジアムの方が臨場感があり、とても試合に入り込みやすく一体感を味わえると感じている。是非甲府にも欲しいと私も感じている。甲府の予算規模がJの中でもとても少ないことは承知しているが、そんなに立派なものでなくてもいいので、純粋に前向きに検討し、身の丈に合ったいい施設ができるといいと感じている。そのための弊害・障害はどんなことかはしっかり検討して、いい検討委員会になればいいと思う。

(委員)

私はずっとスタジアム専門だが、各委員の皆様から重要なキーワードがどんどんできて、びっくりした。スポーツや大きなイベント会場、あるいはコンサート会場として必要な一方、気軽にこられるということはものすごく必要なことで、スタジアムを生かすも殺すも半径5kmの住民がどれだけ365日足を運べるか。身近な我が町の施設という視点で取り組んでいるところがたくさんある。スタジアムの外側にカフ

エがあって、いつもそこでお茶を飲み、日本でいうファミリーレストランの役割を果たしている施設も海外にある。駐車場も肝だと思っている。

一つだけJリーグが役に立たないところがある。それは山梨県ならではのスタジアム、特色をどうだすか。Jリーグとして海外のスタジアムを廻って先進事例は調査してきたが、この地元の山梨県ならではの特色というものをいかに追求するかということが実は非常に大事。地元で大いに議論をして、これまでの長野や吹田や北九州にない、日本で初めての、山梨県ならではのというものを見つけだしていければというのが強い願い。長野は南側の屋根だけ低くなっていて、そこから山々がきれいに見える。大阪の吹田は広大な17haのショッピングセンターと向き合いWin-Winの関係にある施設という特色がある。北九州は新幹線の駅から最も近いというのが特色。それぞれ一所懸命に何を一番売りにするか、それをセールスポイントに県外から、海外からどう集客するか、そんなことも描きながら構想をたてている。これが一番大きなところではないかと思う。

(委員)

サッカーの試合を県外も含めて国外も含めて何度か見たことがあるが、そのスタジアムすべてが陸上競技場と併設されたところであり、専用スタジアムで見たことがない。話を聞いていて非常にもったいないことをしたと思った。アメリカンフットボールは専用スタジアムで観戦したことがあるが、確かに迫力はものすごいと記憶している。なぜ陸上競技場と併設されたのか、今回指摘のように球技場だけでなく複合的な使い方ができるためということで陸上競技場を併設したのではないだろうか。他の競技でも使えるが、結果としてはそれが球技に対してはメリットではなかったということだと思う。今日意見でも出たように、いくつかの視点を含めて整備をするべきであるが、特にメリットがある形でどうやって機能を複合させていくかだと思う。

また、専門の分野である交通については、アクセス性がとても重要である。

(委員長)

議題の(1)について、意見を集約すると、皆様基本的には整備すべきという方向性である。ただし留意すべき点をいくつか指摘いただいた。もちろんお金もかかることであるので、どうやって地域にとってメリットがある整備をしていくかという非常に重要な留意点を指摘いただいた。本委員会においては、今後地域にとって有益な球技場の整備に向けて必要な検討を行っていくという方針で進めさせていただきたい。皆様よろしいか。

今後、本委員会において、球技場整備に向けて必要な検討を行っていくということで確認したので、次回以降そのように進めさせていただく。

(2) 今後の検討委員会の予定について

議題(2)について、資料3により事務局から説明した。

(委員)

昨年、34名で視察を行った。その経験から言うと、松本は古い。松本空港をつくる際にスポーツ施設をつくった。南長野の最近できた運動公園の方を見た方がいい。せっかく両方見るので、南長野は試合のないときに行って中の設備をすべて見て説明を受けて参考にする。帰りに松本の専用スタジアムですごい迫力ある試合を見て帰ってくるというのが時間的にも一番いい。7月24日(日)に長野はアウェイなので施

設を十分に見られる。そして6時のナイターで松本が長崎を迎えてホームで試合がある。これしかない7月は。8月は8月7日(日)に長野がアウェイで、松本がホームで試合をする。7月24日か8月7日、今言ったような考え方で見るとそこしかない。

(事務局)

皆様の日程の都合もあると思うので参考にしながら調整したい。

(委員長)

十分検討しながら日程調整をしたいと思う。

概ね、12月下旬の第6回に向けて検討を進めていく。非常にタイトな日程だが協力をお願いします。

以上で本日予定していた議題はすべて終了したので、事務局に進行をお返しする。

7. 閉会

司会：渡辺政策主幹